

## 【豊見城市教育委員会】

### 校務DX計画

豊見城市教育委員会においては、校務支援システムを導入し、児童生徒の成績情報等の管理をシステム化するとともに、グループウェアサービスを活用し、伝達事項や各種資料及び教材をオンライン（クラウド上）で共有することで校務の効率化を推進してきた。

また、1人1台端末導入後、デジタルドリル（ミライシード）を導入し、授業支援やデジタルによる宿題作成が可能な状況を提供している。

各学校においては、保護者連絡用アプリケーションツール等の導入により教員と保護者間の連絡をデジタル化してきた。

このように、各種デジタル化・オンライン化を進めてきたが、学校現場においては、様々な課題が山積している。「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、具体的な取組を次のとおり定める。

#### 1. 校務支援システム及びアプリケーションツールの統一化

沖縄県内の各自治体で使用している校務支援システム及び各学校で使用している保護者連絡用アプリケーションツールがそれぞれ異なるため、異動してきた教員が慣れるまで時間を要すること、自治体間の情報連携に時間がかかること等、教員へ負担が生じている。沖縄県及び県内自治体で構成される働き方改革推進本部外部連携部会市町村教育委員会情報担当者小部会において、校務支援システム等の統一化が検討されていることから、引き続き沖縄県内の動向を注視し、統一化された校務支援システム及びアプリケーションツールの導入を検討していく。

#### 2. 校務系及び校務外部系端末の統合及びネットワーク環境の再構築の検討

セキュリティ強靱化事業により校務系ネットワークと校務外部系ネットワークを分離し個人情報保護の強化を図ったが、校務系端末と校務外部系端末が物理的に分離している状況かつ校務外部系端末は教員に一人1台の支給が行えていない状況から、業務に支障が出ている。校務外部系端末においては、指導者用端末との統合を検討し、一人1台配布を実現させるとともに、ゼロトラストセキュリティの考え方に基づいたセキュリティ対策を十分講じたネットワークの再構築について調査研究を進めていく。

#### 3. 教育ダッシュボードの検討

児童生徒一人一人の各種「教育データ」（学習系データ、教育行政データ、児童生徒の出欠席及び成績情報等の校務系データ等）を収集・分析・可視化する教育ダッシュボー

ドを構築し、それらの情報を効果的に活用して業務及び授業の改善につなげることが期待されている。

本市にとって最適な教育ダッシュボードの導入、活用について調査研究していく。

#### 4. FAX及び押印の見直し

学校においては依然として紙ベースの資料が多くみられ、FAXの使用等も常態化している。また、押印・署名が必要な書類も多数存在しており、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されている。

緊急連絡や教育ネットワークの不具合時、業者等とのやり取りにおいてFAX対応しか行えない等の特別な場合を除き、FAX及び押印の原則廃止に向けて、各種行政機関及び関係業者等へ見直しを行うよう継続的に依頼していく。

#### 5. セキュリティポリシー策定

本市教育委員会において、教育委員会専用のセキュリティポリシーが策定されておらず、学校におけるセキュリティ対策に関して学校間でバラつきがある。

早急にセキュリティポリシーを策定し学校へ周知するとともに、各学校へ指導を行っていき、統一的で適切な情報資産の取扱いを徹底させていく。

#### 6. その他

上記1～5の取組のほか、以下についても検討、実施していく。

- ・ ICTを活用した採点業務の効率化
- ・ 各学校及び各教職員のスキル格差を解消するため、情報支援補助員を継続活用し、導入されているデジタルツールの活用促進を図る。